

問題はつぎのページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 めったにないことで頭がコンランしてしまった。
- 2 その本は時間をかけて読むだけの力チがある。
- 3 ジソン心を傷つけられた。
- 4 お店がお客さんの意見をハンエイさせる。
- 5 提出された作文を冊子にする。
- 6 白米よりも雑穀米を好んで食べる。
- 7 その大会で世界記録が樹立された。
- 8 他国の政治に干渉する。

問二 次の□に「不・無・非・未」のいずれかを入れて、熟語を完成させなさい。

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ |
| 差別 | 注意 | 使用 | 合法 | 平等 | 常識 | 関心 | 成年 |

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

北風が吹きこまない庭のかたすみに、るり色の線が何本もはいつているオオイヌノフグリふの小さな花がさきはじめると、もう、春です。しかし、気温は、日中でも、まだ十二度か十三度です。

大部分のこん虫は、このころは、まだ、冬のすがたのままで、深いねむりからさめていません。

でも、あたたかい日には、かれ草の上や木の幹に、いく種類かのこん虫を見かけることができます。かたくてじょうぶなはねをもった甲虫類こうちゅうるいや、二枚ばねのハエのなかまなどです。

風のない静かな日には、チョウのすがたで冬ごしをしたタテハチョウのなかまが、元気よく飛んできて、黒くしめった土の上にとまり、はねをいっばいに開いて日光浴をはじめます。

春の彼岸ひがんがくると、庭のようすも、きゆうに春めいてきます。このころになると、小さいアリが庭のあちこちを動きまわっているのが目にとまります。冬の間とざしていた入口を、さいしよに開くのは、トビイロケアリかクロオオアリです。クロオオアリは、入口のまわりに I のような形に土を盛りあげて、春がきたのを知らせています。

このころから、こん虫の世界は、かっぱつな活動がはじめられ、庭もたいそうにぎやかになります。

チョウ・ハチ・アブのなかまが、つぎつぎとさなぎから出てきて、花のみつをすい、花粉をからだにつけて、花から花へ飛んでいきます。

去年の秋から冬ごもりしていたアシナガバチのめすも、かくれ場所から出て、家ののきしたや、木の枝などに、小さな巣をつくります。① 巣のザイリョウざいりょうは、雨にさらされた板や柱からせんいをとり、口でかみくだいたものです。

巣にうみつけれられたたまごは、まもなくかえって、ウジのような形の幼虫になり、サナギとなって、やがて一人前のハチになります。こうして、何びきもの家族で幼虫の世話をはじめるのは、夏のはじめのつゆのころです。八月ごろになると、ハチの家族は、何十ぴきもの大家族にふくれあがります。

夏のあつい日中には、池にきて口に水をふくみ巣に持ち帰って幼虫にあたえたり、イモムシやアオムシをおそって、それをころし、肉

をかみ切って肉だんごをつくり、これを幼虫にたべさせるのは、^Cはたらきバチの役目です。

春のおわりごろ、草の茎^{くき}に、Ⅱのような、あわのいっぱいあつまったかたまりを見かけます。これはアワフキムシの幼虫がつくったもので、幼虫はこの中で木の若枝^{わかえだ}の養分をすってそだちます。成虫はⅢのような形の小さな虫です。

花だんの土の中では、コオロギの幼虫がうまれて、秋がくるまでに成虫にそだちます。モンシロチョウのたまごや幼虫はキャベツ畑や菜畑で、アゲハチョウのたまごや幼虫は庭すみのカラタチの木で、日ごとに成長しています。

タンポポのたねが、わた毛のパラシュートをつけて風にまい上がり、ダリアの花がさくころになると、庭のかたすみにもコオロギがうまれ、また、卵からかえってまもない一センチほどのカマキリの幼虫が、Ⅳのような形の前足をかかえて歩きまわります。

ササの葉がしげっている裏庭の葉の上には、三角の頭をつけた、みどり色のいも虫がとまっているのを見ることがあります。

この幼虫は、やがて、さなぎになると、尾^おのさきを糸にかけてさかさにぶらさがります。一週間もすると、さなぎの頭の部分のからが二つにわれて、きれいなチョウがたんじょうします。ジャノメチョウのなかまです。このチョウは、つんつんと、ひょうしをとるような飛びかたをするのと、はねの裏に金茶色のまらいもんをつけていることで、ほかのチョウとたやすく区別^Dがつきます。

ササの葉のあるところには、ゴイシシジミが飛んでいるのをよく見かけます。このチョウの幼虫は、ササについているカイガラムシを食べてそだっていきます。

シジミチョウのなかまは、夏から秋に成虫になるものが多いので、このころには、いく種類ものシジミチョウを見かけるにちがいありません。どのシジミチョウも、形は小さく、たいそうかわいらしいものばかりです。

夏のはじめごろ、かたくふみかためられた土の上に、^②チョッケイ五ミリほどのあなが、いくつもあいているのを見ることがあります。

あなの近くにしゃがみこんで、静かに観察してみましよう。すると、そのあなから細長い虫が、半分からだをのり出して、ハエなどをとらえているのを見ることができでしょう。このあなの中にはハンミョウのなかまの幼虫がすんでいるのです。

庭のごみや石などを動かすと、ゴミムシのなかまが、きゆうに明かなくなったのにおどろいて、にげまわるのが見られます。こんな場所にはコオロギの幼虫がひそんでいることもあります。秋に鳴く虫は、六月のはじめごろまでにはうまれて、それから七十日ぐらいの間に成虫になります。

つゆがすぎると、もう、ま夏です。

庭には小さいこん虫をねらって、ムギワラトンボをはじめ、いろいろな種類のトンボが、大きな目玉を光らせながら飛んでいます。池のある庭では、コシアキトンボを見かけることもできるでしょう。

こい緑のかげをつくる木のみきでは、時期のうつるにつれて、さまざまなセミが鳴きはじめますが、ツクツクボウシが鳴きはじめると、季節はもう秋です。

あつい一日がおわってタすずみをするころから夜のあかりを目がけて、さまざまなガやアリのなかま、ウンカのなかまが飛んでいます。むしあつい夜には、羽アリが大群をつくって、おそってくるのも、めずらしいことはありません。

（「動物の観察と飼育」砂村秀治著）

問一 部①ゝ③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中

I

ゝ

IV

 にあてはまる語句としてそれぞれ適切なものを、次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

ア セミ イ かま ウ 火山のふん火口 エ はき出したつば

問三 線部A、B「このころ」とはそれぞれいつくらいのころをさし示していますが、本文中の言葉を使って答えなさい。

問四 線部C「はたらきバチの役目」とありますが、その内容として適切ではないものを次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 雨にさらされた板や柱からせんいをとり、口でかみくだいたもので巣をつくる。

イ イモムシやアオムシをおそって肉だんごを作って幼虫に食べさせる。

ウ つゆのころから幼虫の世話をし始めるようになる。

エ 池にきて口に水をふくみ、幼虫にあたえる。

問五 線部D「ほかのチョウとたやすく区別が付きま

す」とありますが、ほかのチョウと区別するときのジャノメチョウの特徴を二つ

とくちよう

問六 春から夏にかけて、次の場所に生息しているのは何の幼虫か、あとのア～オからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 庭のごみや石の下
- (2) 庭のすみのカラタチの木
- (3) ササの葉がしげっている裏庭の葉の上
- (4) ふみかためられた土にいくつもある小さなあなの中

ア ハンミョウ イ コオロギ ウ シジミチョウ エ アゲハチョウ オ ジャノメチョウ

問七 次のア～オを本文に従って季節や時期の順番通りに整理するとどうなるか。順番に従ってならべて記号で答えなさい。

ア 北風が吹きこまない庭のかたすみに、オオイヌノフグリの小さな花がさきはじめる
イ ツクツクボウシが鳴きはじめる
ウ 小さいアリが庭のあちこちを動き回っているのが目にとまる
エ 小さいこん虫をねらって、ムギワラトンボをはじめ、いろいろな種類のトンボが飛んでいる
オ 草の茎に、アワフキムシの幼虫がつくった、あわのいっばいあつまったかたまりを見かける

三

主人公の真歩は、父の退職による引っ越しで、書道パフォーマンスに魅かれて入学した憧れの「影山高校」を退学してしまう。しかし引っ越し先で、妹の同級生であるトルコ系ハーフの千風と、その姉の伶来に出会い、「アラビア書道」の練習をすることになる。文章を読み、以下の問いに答えなさい。

カランカラン。集中していて、ドアのベルが再び鳴ったことにも気がつかなかった。

「こんにちは。お邪魔します。」

何だか聞き覚えのある声で我に返る。① 球場の青空に吸い込まれるボールみたいな声。

「図書館の宝来です。」

え？

私は筆を握ったまま振り向いた。

「どうぞー。お入りください。」

A ミカコさんが私たちとは別のテーブルに宝来さんを案内する。

な、何で宝来さんがここに？

別に隠れたいわけじゃない。けれど、なぜか私はくるっとテーブルに向き直り、挨拶をするタイミングを逃してしまった。

背中を向けているせいか、宝来さんは私に気づかない。

「すみません、お忙しい中、お時間いただきましてありがとうございます。」

「いえ、大丈夫です。ランチとディナーの合間なら、時間が取れますから。まずはチャイでもどうぞ。」

私は再び筆を動かし始めたけれど、気が散っているからか、インクがかすれてうまく書けない。ああ、文字ってほんとに気持ち表れるな。

「お電話でお話したとおり、今度、図書館でトルコを紹介する展示をすることになったんです。」

これが企画書です、と宝来さんの声がする。

「へえ、タイトル親しみやすいですね、『メルハバ、トルコ！』。メルハバの意味は『こんにちは』って、私もトルコで最初に覚えました。宝

来さんもトルコに行かれたことがあるんですか？」

「はい、トルコに一人旅したことがあるんです。実は私、新卒で入った会社が合わなくて三か月で辞めちゃって。親には怒られるし、もう人生どうにでもなれって思っ、一人で海外に行くことにしたんです。」

「へえ、それで何でまたトルコに？」

「外国って初めてで自信なくて。でも、トルコは昔から親日だって聞いたことがあったからなんです。」

そしたらもう、と宝来さんは声をワントーン上げた。

「すっごく楽しかったんです。イスタンブールに行ったんですけど、食べものは何でも美味しいし、街中に野良猫いっぱいいるし……。それより何より、人ですね。地理的にアジアとヨーロッパが交わってるからか、外見も人それぞれ。それが何だか、そのときの私には、すごく風通し良く感じたんです。誰かを真似るんじゃなくて、ただの自分でいいんだなって。ちょっと怪しいお兄さんにナンパされたりもしましたけど、優しい人も多くて、バスの乗り方とか困ってるって親切に教えてくれました。」

「トルコは情に厚い人が多いですからね。うちの夫の家族もそう。」

「ですよ！ そういうわけで、トルコの展示は、私がずっとやりたかった念願の企画なんですっ。」

宝来さんがミカコさんに熱くまくし立てる。図書館員って、もっと何ていうか、静かで落ち着いた人が多いイメージだった。

最初の仕事を三か月で辞めたって言ってたけど、どんな道のりで今の図書館にたどり着いたんだろう。

というか三か月って、私が影山高校に通った期間と一緒じゃん。

「それで、^{キョイ}さんのトルコの写真をお借りしたいんです。前にこのレストランに来たときに、写真がすごく素敵だと思って。本と一緒に展示させていただけないでしょうか。」

「ホントにうちにある写真でいいんですか？ これ、中学生の息子が撮ったんですよ。」

ミカコさんはいたずらっぽい笑みを浮かべて謙遜している。

「えっ、すごいじゃないですか！ プロみたい。」

「それでも飾ってあるなかから選んでください。ねえ、いいよね、千風？」

ミカコさんが私たちのいるテーブルに呼びかけた。

「あー、うん。」

「君が千風くん？ わあ、一眼レフ持ってる。はじめまして！」

宝来さんが立ち上がって、こちらのテーブルに歩み寄る。

だから当然、見つかった。

「あれ!? 真歩ちゃん？」

「こ、こんにちはー。」

私は苦笑いで挨拶をした。

「えーっと、これは何の集まり？」

千風くん、伶来、ハリル先生、そして私。まとまりないメンバーを見て、宝来さんは首を傾げる。

「今そこでアラビア書道の練習をやってるんですよ。千風の姉の伶来と、真歩ちゃんは友達なんです。」

宝来さんの後ろからミカコさんが助け舟を出す。

「アラビア書道!？」

キランと宝来さんの瞳が輝く。

「何ですか、その魅力的な響き！」

「アラビア書道は、イスラームの聖典クルアーンの言葉を美しく書き表すためのアートですよ。」

「クルアーン……? あ、コーランのことですね。」

「はい。アラビア語ではクルアーンといいます。同じようにイスラム教はイスラーム、モスクはマスジドと発音しますよ。」

へえ、そうなんだ。宝来さんと一緒に、私も初めて知った。

「トルコは著名なアラビア書道家が多いです。オスマン帝国の時代から、高い技術が弟子たちに受け継がれているので。」

ハリル先生が説明すると、

「そうなんですか……。」

宝来さんは小さく口を開けたまま、テーブルの上に広がる紙や筆をぐるりと見回して、

「はい、ひらめきました！」

教室の学生のように手を挙げた。

「ひらめき？」

「ねえ、『メルハバ、トルコー』の展示で、アラビア書道の作品を飾らない？」

宝来さんの眼差しは、伶来と私に向けられていた。

「先生の作品じゃなくて、私たちのですか？」

宝来さんは大きくうなずく。

「この街に住んでる子たちが書いた作品って、きっと見る人に親近感を持ってもらえると思うんだよね。」

私たちの書いたアラビア書道の作品を展示する……。

突然の誘いに、いろんな気持ち湧きあがる。

まったくの初心者なのに、多くの人に見てもらうような作品が書ける？

それに、伶来はどう思う？

私がアラビア書道やりたいなんて言い出したから、変なことに巻き込まれちゃって迷惑だったりして。

「練習の期間が必要だと思います。展示はいつからですか？」

ハリル先生が宝来さんに尋ねる。

「十一月上旬から一か月間です。なので、十月末ごろまでに作品をお預かりしたいです。」

十一月といえば。私には一大イベントが待っている。

高卒認定試験だ。

その勉強もあるのに、アラビア書道の練習をして大丈夫かな。

でも。

十一月には、もうひとつ思い出すものがある。

影山高校の文化祭だ。

ずっと書道パフォーマンスに出るのを夢見ていた。でも、もうそれは叶^{かな}わない。

形は変わっても、私の書道^Dを人に見てもらえるなら。

私は息を吸った。

「……やってみたいですが、私は。」

語尾^{ごび}に力を込めたのは、伶来を無理に巻き込みたかと思っただからだ。

今は夏休みだけど、伶来には私と違って高校生活がある。忙しい毎日が再開するのもかもしれない。

伶来が参加できないなら、自信はないけど自分だけでもやろうと思った。

「うん、やってみよ。」

「ほんと？ 伶来もいいの？」

X

みたいに、伶来はすぽっと私の言葉を包み、

「弟の作品だけ展示されるの、何か癢^{しゃく}だし。」

にかつと笑う。

「ハリル先生、展示作品ができあがるまで、レッスンしていただけませんか？ 習いごととして、謝礼はお渡^{わた}しますのです。」

ミカコさんがハリル先生に言った。

「かまわないですよ、二週間に一度くらいなら。日本で若い人たちがアラビア書道に親しむのはうれしいことですから。」

ハリル先生がうなずく。

やった……。まるでパズルのピースがはまっていくみたい。^E

私は信じられない思いで瞬^{まばた}きをした。

(こまつあやこ) 雨にシュクラン)

問一 ――線部①～③の本文中における意味として適切なものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|---------------------------|-------------|------------------------|-------------------------|
| ① 我に返る | ア 物事に没頭する ^{ぼつとう} | イ はつと気付く | ウ 感情を抑える ^{おさ} | エ 思い出す |
| ② 情に厚い | ア 思いやる気持ちが強い | イ ていねいだが情熱的 | ウ 情報にくわしい | エ 感情に流されがち |
| ③ 助け舟を出す | ア うとうとする | イ 専門家に任せる | ウ 手助けをする | エ 逃げ道 ^に をつくる |

問二 ――線部A「ミカコさん」について説明した次の文の空欄×・Y・Zに入る言葉を、あとのア～キから一つ選んで記号で答えなさい。

(X)と(Y)の(Z)。

ア 真歩	イ 伶来	ウ 千風	エ 宝来さん	オ 姉	カ 母親	キ 先生
------	------	------	--------	-----	------	------

問三 ――線部B「イスタンブール」はトルコの首都ですが、次のうち、国の名前と首都の名前の組み合わせで適切でないものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア	アメリカ合衆国	―	ニューヨーク
イ	中国	―	北京
ウ	フランス	―	パリ
エ	エジプト	―	カイロ

問四 ―― 線部C「いろんな気持ち^ちが湧きあがる」とありますが、その時の気持ちとして適切でないものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 初心者なのにアラビア書道の展示にみあうような作品が書けるのだろうかという不安
イ もともとやろうと思っていたものとは違^{ちが}うが、私の書道を見てもらいたいという希望
ウ 実はやりたくないと思っているかもしれない怜来を巻き込むことになるのではという心配
エ 十月の末ごろまでにはアラビア書道の作品を完成させなければならないという焦^{あせ}り

問五 ―― 線部D「私の書道を人に見てもらえるなら」とありますが、これに続く真歩の気持ちはどのようなものだと考えられますか。本文中より六字でぬきだして答えなさい。

問六 ―― 線部E「まるでパズルのピースがはまっていくみたい」とありますが、そのように真歩が感じたのはなぜでしょうか。「影山高校で書道パフォーマンスをするという夢はもう叶^{かな}わないが、」に続けて、その理由を答えなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

宝来さん ・ 怜来 ・ ハリル先生

問七 文中の空欄 X に入る比喩表現を、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア バスケットのボール イ バスケットのゴール ウ 野球のバット エ 野球のグローブ

問八 本文中のようにと同じ用法の「ように」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。

